



Title	大学生の自閉スペクトラム特性を包括的に測定する試み : CATI-j の標準化とスコアリングフォームについて
Author(s)	中西, 萌子; 千田, 若菜; 岡田, 智
Citation	子ども発達臨床研究, 23, 63-73
Issue Date	2026-06-20
DOI	https://doi.org/10.14943/rcccd.23.63
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/99975
Type	departmental bulletin paper
File Information	06_1882-1707_07.pdf



資料論文

大学生の自閉スペクトラム特性を包括的に測定する試み — CATI-j の標準化とスコアリングフォームについて —

中西 萌子*・千田 若菜**・岡田 智***

Comprehensive Assessment of Autistic Traits in University Students: Standardization and Scoring Form Development of the CATI-j

Moeko Nakanishi, Wakana Chida, Satoshi Okada

要 旨

本研究は、自閉スペクトラム特性（AS 特性）を包括的に測定する尺度「CATI-j」について、大規模な大学生集団を対象に再検証を行い、標準化データを構築することを目的とした。あわせて、臨床的活用を促進するためのスコアリングフォーム（Fillable PDF）を作成した。大学生 1,111 名を対象に調査を行った結果、合計得点および各下位尺度で高い内の一貫性が示され、得点分布も概ね正規分布に従うことが確認された。性別による検討では一部の下位尺度で有意差が認められたものの、合計得点には差がなく、全体として日本の大学生への十分な適応可能性が再確認された。CATI-j は、社会性の困難や行動や興味の限局に関する特性だけでなく、感覚過敏や社会的カモフラージュを含めた AS 特性を包括的に測定することが可能な尺度であり、今後の高等教育における修学支援や臨床場面でのアセスメントツールとしての活用が期待される。

キーワード：CATI-j、自閉スペクトラム特性、標準化、スコアリングフォーム、大学生

問題と目的

1. 自閉スペクトラム症の診断概念と特性理解の変遷

自閉スペクトラム症（Autism Spectrum Disorder：以下、ASD）とは、社会性の困難と興味や行動の限局を中核的な症状とする神経発達症である（American Psychiatric Association, 2013）。DSM-5 では、広汎性発達障害に総称される下位分類が

ASD に統合され、感覚特性が診断基準の一部として新たに加えられた。また、下位分類に代わって、症状や困難の程度に応じた重症度による評価が導入されている（American Psychiatric Association, 2013；本田, 2014）。近年では、ASD の特徴を覆い隠すことで社会的適応を図る方略である「社会的カモフラージュ（Hull et al., 2017）」が臨床的にも学術的にも注目されている（例えば、千田・岡田, 2021）。こうした ASD と関連し質的にも類

* 北海道科学大学保健医療学部看護学科

** 医療法人社団ながやまメンタルクリニック

*** 北海道大学大学院教育学研究院

似する特性 (Autistic Traits: 以下, AS 特性) は、一般人口にも広く正規分布することが知られている (Baron-Cohen, 2008; Ruzich et al., 2015)。ASD における感覚特性や社会的カモフラージュは、メンタルヘルスと関連するという指摘もあることから (Chen et al., 2024; Summerill & Summers, 2025), ASD の診断の有無だけでなく, AS 特性としてその濃淡を包括的に捉える必要性が増している。

2. わが国における AS 特性のある大学生の実態と研究動向

日本学生支援機構 (2024) の調査によると, 令和 5 年度における ASD の診断がある学生数は全障害学生数の 1 割程度を占め, 発達障害の中でも最多であることが報告されている。診断域下の学生が増加している現状を踏まえると, 支援を要する学生は先の報告よりも多く存在することが推察され, 支援体制の拡充は高等教育全体における喫緊の課題といえる。それに伴い, より具体的な支援策を検討するべく実態調査 (例えば, 前田ら, 2017; 川村ら, 2021) が行われている。これまでの調査では, 「The Autism-Spectrum Quotient 日本語版 (Kurita et al., 2005)」や「Broad Autism Phenotype Questionnaire 日本語版 (酒井ら, 2014)」が多く用いられてきた。いずれも, 国際的にも広く使用されている有用な尺度であるが, 旧来の診断概念による AS 特性を主として測定するものであり, 感覚の特異性や社会的カモフラージュを含めて測定することはできない。そのため, 社会性の困難やこだわりだけでなく, 感覚の特異性や社会的カモフラージュを含めて包括的に AS 特性を測定するには, 複数の尺度を併用せざるを得ず, 回答負担が増大することが指摘されている (English et al., 2021; Okada et al., 2024)。

3. 包括的自閉スペクトラム特性尺度の開発と標準化, およびスコアリングツール作成の必要性

最近では, AS 特性を包括的に測定するための尺度として「The Comprehensive Autistic Trait Inventory (CATI: English et al., 2021)」が開発

された。CATI は, 既存の AS 特性の尺度では捉えきれなかった感覚過敏と社会的カモフラージュを含めた 6 つの下位尺度から構成されており, 調査研究のみならず, 臨床現場での活用も期待されている (English et al., 2021; Okada et al., 2024)。わが国でも大学生向けにその日本語版が作成され, 一定の信頼性と妥当性が検証されたが, 特定の専攻や性別の偏りがあるなど, サンプルングの限界が指摘されている (Okada et al., 2024)。したがって, CATI をより広く活用するには, 大規模かつ多様な属性の大学生集団における検討が必要である。加えて, オリジナル版の CATI では, ASD 当事者グループとの協議を踏まえた下位尺度の名称変更がなされている (English et al., 2025)。臨床現場での活用や実用性を踏まえると, 最新の知見を反映し, かつ回答負担が軽減されるアセスメントツールの整備が望まれる。

以上の背景を踏まえ, 本研究ではより大規模な大学生集団を対象に The Comprehensive Autism Traits Inventory 日本語版 (CATI-j: Okada et al., 2024) の再検証を行い, 標準化データを構築することを目的とする。あわせて, CATI-j の臨床的活用を促進すべく, 利便性の高いスコアリングフォーム (Fillable PDF) を作成する。本稿では, これら一連の成果について報告する。

方 法

1. 研究協力者と調査手続き

2022 年 10 月～2025 年 9 月の期間に, 北海道にある A 大学および B 大学の 2 校で研究協力者を募った。具体的には, オンラインの掲示機能および学内掲示板へのポスター掲示, あるいは研究者らが担当する講義を通じて, 計 3,428 名を対象に研究協力者を募集した。研究の目的と方法, 個人情報保護, 研究協力の任意性, 結果の公表, 研究者の連絡先について文書で説明し, その内容に同意した 1,131 名が Google フォームを用いた調査に参加した。そのうち, 妥当性項目で不適切な回答を行ったものやでたらめな回答をしたもの

20 名を除外し、最終的に 1,111 名を分析の対象とした（有効回答率 32.4%）。研究協力者の基本属性を表 1 に示す。

なお、本研究は北海道大学教育学研究院研究倫理委員会の承認を得た上で実施された（承認番号 22-29, 25-08-03）。

表 1 研究協力者の基本属性 ($N = 1111$)

	n (%)	M (SD)
性別		
男性	593 (53.4)	
女性	500 (45.0)	
性別非開示	18 (1.6)	
年齢		20.5 (3.5)
専攻		
理工・情報系	362 (32.6)	
人文・社会科学系	128 (11.5)	
教育学系	355 (32.0)	
保健・医療系	266 (23.9)	

2. 実施尺度

The Comprehensive Autism Trait Inventory 日本語版 (CATI-j : Okada et al., 2024)

本尺度は、「社会的交流 (Social Interaction : SOC)」、 「コミュニケーション (Communication : COM)」、 「社会的カモフラージュ (Social Camouflage : CAM)」、 「感覚過敏 (Sensory Sensitivity : SEN)」、 「反復・自己調整行動 (Self-Regulatory Behaviors : REG)」、 「認知的柔軟性 (Cognitive Flexibility : FLX)」の 6 つの下位尺度から構成される。18 歳以上の一般人口における AS 特性を測定するものであり、診断に代わるものではない。質問項目は各下位尺度 7 項目の計 42 項目で、各質問に対して「まったく当てはまらない (1 点)」から「とても当てはまる (5 点)」までの 5 件法で回答する。下位尺度は 7 点から 35 点の範囲、合計得点は 42 点から 210 点の範囲をとり、得点が高いほど AS 特性が強いことを示す。CATI は、オリジナル版、日本語版ともに信頼性と妥当性が確認されている (English et al., 2021; Okada et al., 2024)。

3. 統計的分析

データ解析は、すべて統計ソフト SPSS19.0 を用いて行い、有意水準は 5% 未満とした。

CATI-j の合計得点および各下位尺度について、平均値 (M)、標準偏差 (SD)、四分位範囲 ($Q1$ - $Q3$) を算出した。また、得点分布の正規性を確認するため、尖度および歪度を算出した。そして、内的一貫性について検討するため、各下位尺度および合計得点に対して Cronbach の α 係数を算出した。

また、ASD の有病率には性差があり (American Psychiatric Association, 2013)、AS 特性の表現型も性別によって異なることが指摘されている (Lai et al., 2015; Hull et al., 2017)。そのため、性別による差異を検討する目的で、CATI-j の各得点 (下位尺度および合計得点) を従属変数とし、性別 (男性、女性、性別非開示) を独立変数とした一元配置分散分析を行った。なお、多重性の問題に対処するため Bonferroni 法による調整を適用し、有意水準は 1.67% 未満とした。

結果と考察

1. CATI-j 記述統計と内的一貫性について

CATI-j の下位尺度および合計得点における平均 (SD) と四分位値、尖度と歪度、そして内的一貫性を表 2 に示す。各尺度の第 1 四分位値から第 3 四分位値 ($Q1$ - $Q3$) は 13 点から 25 点の範囲にあり、いずれも得点範囲の中央付近に分布していた。尖度は $-0.25 \sim -0.58$ 、歪度は $-0.13 \sim 0.23$ の範囲であり、概ね正規分布に従っていた。また、Cronbach の α 係数は合計得点で .897、各下位尺度では .757 $\sim$.858 の範囲であり、高い信頼性基準を満たした。

先行研究 (Okada et al., 2024) と比較しても、本研究における記述統計と得点分布は概ね同様の傾向を示し、床効果が報告されていた一部の項目についても、尺度全体として正規分布に従うことが確認された。また、信頼性係数については、合計得点および全下位尺度で $\alpha > .70$ の基準を大きく上回り、高い内的一貫性が示された。以上のこ

とから、CATI-j は日本の大学生において十分に
適応可能な尺度であることが再確認された。

表 2 CATI-j の記述統計と得点分布および内的一貫性 ($n = 1111$)

	$M(SD)$	$Q1-Q3$	尖度	歪度	α	95% CI
SOC	20.3 (6.2)	16-25	-0.56	0.02	.858	± 4.6
COM	16.7 (5.0)	13-20	-0.35	0.23	.764	± 4.8
CAM	20.8 (5.5)	17-25	-0.37	-0.03	.782	± 5.0
REG	19.7 (5.9)	15-24	-0.58	0.07	.769	± 5.6
FLX	21.1 (5.4)	17-25	-0.34	-0.10	.757	± 5.2
SEN	18.7 (5.7)	15-23	-0.47	0.07	.765	± 5.4
CATI total	119.1 (22.4)	104-135	-0.25	-0.13	.897	± 14.1

注) M = 平均値, SD = 標準偏差, $Q1 - Q3$ = 四分位値の第 1 四分位数 ($Q1$) および第 3 四分位数 ($Q3$), α = Cronbach の α 係数, 95% CI = 個人得点の 95% 信頼区間 ($X \pm 1.96 \times SEM$ ($SEM = SD \sqrt{1 - \alpha}$) により推定し本表にはその半幅 ($\pm$ の値) を示した), SOC = 社会的交流, COM = コミュニケーション, CAM = 社会的カモフラージュ, REG = 反復・自己調整行動, FLX = 認知的柔軟性, SEN = 感覚過敏, CATI total = CATI-j 合計得点

2. 性差について

性別毎の各尺度得点と分散分析の結果を表 3 に示す。「コミュニケーション (COM: $F = 12.42$, $p < .001$, $\eta p^2 = .022$)」および「反復・自己調整行動 (REG: $F = 9.96$, $p < .001$, $\eta p^2 = .018$)」の主効果は有意であり、効果量は小さいものの、男性群は女性群よりも有意に下位尺度得点が高い結果となった。また、「社会的交流 (SOC: $F = 3.35$, $p = .036$, $\eta p^2 = .006$)」および「感覚過敏 (SEN: $F = 3.03$, $p = .049$, $\eta p^2 = .005$)」でも主効果は有意となったが、効果はなく、性別による群間差は認められなかった。一方で、「認知的柔軟性」、「社会的カモフラージュ」、「合計得点」においては、有意差はなかった。

先行研究 (Okada et al., 2024) では、性別による差異は報告されていなかったが、本研究では「コミュニケーション」と「反復・自己調整行動」

で性差が認められた。これらは AS 特性の中でも中核的なものであり、男性により多く認められたことは、ASD の有病率における男女比の傾向や English ら (2025) による大規模調査の結果とも整合するものである。一方で、合計得点で性差が認められなかった点は、男性が女性よりも有意に高い得点を示したとする English ら (2025) の結果とは異なるが、国内の大学生を対象とした調査 (Okada et al., 2024) の結果とは一致しており、文化差が影響した可能性が考えられる。また、性別によって AS 特性の表現型は異なるものの、総和としては差が出なかったことについては、各下位尺度における差異が相殺されたためと推察される。したがって、English ら (2025) が提唱するように、合計得点だけでなく各下位尺度の得点についても検討することが重要であろう。

表 3 性別による CATI-j 各尺度得点の平均値と標準偏差および分散分析の結果 (N = 1111)

	男 <i>M (SD)</i>	女 <i>M (SD)</i>	非開示 <i>M (SD)</i>	<i>F</i> (2, 1108)	<i>p</i>	ηp^2	多重比較
SOC	20.0 (6.2)	20.5 (6.2)	23.6 (5.4)	3.35	.036	.006	n.s.
COM	17.4 (5.1)	15.9 (4.8)	16.7 (4.3)	12.42	< .001	.022	女 < 男
CAM	21.0 (5.4)	20.7 (5.7)	19.7 (5.0)	0.91	.402	.002	n.s.
REG	20.4 (5.9)	18.8 (5.6)	20.0 (7.8)	9.96	< .001	.018	女 < 男
FLX	21.3 (5.4)	20.8 (5.4)	20.9 (7.2)	0.82	.442	.001	n.s.
SEN	18.3 (5.5)	19.1 (6.0)	20.4 (5.4)	3.03	.049	.005	n.s.
CATI total	119.6 (22.5)	118.3 (22.1)	124.1 (19.7)	0.90	.406	.002	n.s.

注) ηp^2 = partial eta squared, n.s. = 有意差なし, 男 $n = 593$, 女 $n = 500$, 非開示 $n = 18$

SOC = 社会的交流, COM = コミュニケーション, CAM = 社会的カモフラージュ, REG = 反復・自己調整行動, FLX = 認知的柔軟性, SEN = 感覚過敏, CATI total = CATI-j 合計得点

3. 標準化について

本研究で収集した大学生データにおいては、各尺度の内の一貫性および性差の結果から、男女を区別せず、表 2 に示した標準値を用いることが妥当であると判断された。この 1,111 名の大学生データの平均値および標準偏差に基づき、各尺度の標準得点 (Z 得点) を算出することが可能である。また、四分位値 (Q1-Q3) に基づき、25 ~ 75 パーセンタイルを「通常範囲」、75 パーセンタイル以上を「特性が強い」とする解釈も可能である。ただし、これらの基準は本研究の大学生サンプルに基づく暫定的なものである点に留意する必要がある。そして、95% 信頼区間は個人の観測得点に含まれる測定誤差の範囲を示すものであり、本研究においては下位尺度で約 ± 5 点、合計得点で約 ± 14 点の幅が確認された。心理尺度の観測得点には、測定誤差に加え、回答時の状態や状況の影響に由来する変動が含まれることも指摘されている (Steyer et al., 2015)。これらのことから、臨床場面で活用する際には、個人の得点解釈において一定の測定誤差や状態変動を考慮する必要がある。

近年では、当事者の体験に基づく研究から、感覚過敏や反復・自己調整行動には、特定の音や光など周囲の環境要因に加え、不安や疲労といった

個人の状態など、さまざまな要因が影響することが報告されている (Collis et al., 2022; Hsieh et al., 2022)。これを踏まえると、CATI-j においても、回答時の疲労や感覚過敏の程度、対人ストレスの状況などにより、得点変動する可能性がある。さらに、評価が行われる場面や目的の違い、自身の特性に対する気づきや内省の程度によっても影響を受ける可能性がある。したがって、臨床場面においては、単一の得点のみに依拠するのではなく、面接を通して評価の意図や背景を把握するとともに、社会的文脈も踏まえながら結果の解釈を共有していくことが求められる。

4. 入力可能なスコアリングフォーム (Fillable PDF) について

本尺度は印刷された質問紙および Web 形式での実施が可能であるが、臨床場面において迅速に結果を算出・解釈できるよう、回答時に入力可能なスコアリングフォーム (Fillable PDF) を作成した。本フォームでは四分位値に基づき、6 つの特性の水準を簡便に把握することができる。なお、本フォームは心理アセスメントおよび心理面接、ASD そして AS 特性に関する専門的知識を有する者による使用を想定している。利用方法の詳細については、責任著者に問い合わせされたい。

今後の課題

本研究では、大規模な大学生サンプルに基づき CATI-j の標準化を行い、簡便な実施が可能なスコアリングフォームを作成したが、いくつかの限界も残った。まず、本研究は一地方の2大学の学生を対象としており、結果の一般化には慎重を期す必要がある。今後は全国規模での調査や ASD の診断がある臨床群との比較検討が求められよう。また、作成したスコアリングフォームは、現時点では実用化には至っていない。今後は実際の臨床場面での試用を通じ、その有効性及び運用上の課題についての検討が必要であろう。

引用文献

- American Psychiatric Association (2013)/ 高橋三郎・大野裕 監訳 (2014). DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル (改訂第5版). 医学書院.
- Baron-Cohen S.(2008)/ 水野薫・鳥居深雪・岡田智訳 (2011). 自閉症スペクトラム入門 脳・心理から教育・治療までの最新知識. 中央法規.
- Chen Y., Xi Z., Saunders R., Simmons D., Totsika V., & Mandy W. (2024). A systematic review and meta-analysis of the relationship between sensory processing differences and internalising/externalising problems in autism. *Clinical Psychology Review*, 114, 102516.
- 千田若菜・岡田智 (2021). 自閉スペクトラム症における過剰適応とカモフラージュの臨床的意義. 子ども発達臨床研究, 15, 57-66.
- Collis E., Gavin J., Russell A., & Brosnan M. (2022). Autistic adults' experience of restricted repetitive behaviours. *Research in Autism Spectrum Disorders*, 90, 101895.
- English M. C. W., Gignac G. E., Visser T. A. W., Whitehouse A. J. O., Enns J. T., & Maybery M. T. (2021). The Comprehensive Autistic Trait Inventory (CATI): Development and Validation of a New Measure of Autistic Traits in the General Population. *Molecular Autism*, 12(1), 37.
- English M. C. W., Poulsen R. E., Maybery M. T., McAlpine D., Sowman F. P., & Pellicano E. (2025). Psychometric Evaluation of the Comprehensive Autistic Trait Inventory in Autistic and Non-Autistic Adults. *The International Journal of Research and Practice*, 29(12), 2955-74.
- 本田秀夫 (2014). 発達障害へのアプローチ:最新の知見から(第3回) 発達障害の早期支援. 精神療法, 40(2), 299-307.
- Hsieh J-J., Nagai Y., Kumagaya S., Ayaya S. & Asada M. (2022). Atypical auditory perception caused by environmental stimuli in autism spectrum disorder: A systematic approach to the evaluation of self-reports. *Frontiers in Psychiatry*, 13, 888627.
- 川村晃右・松本賢哉・森岡郁晴 (2022). 女子看護系大学生の Broad Autism Phenotype の状況とコミュニケーション・スキル, 看護実践能力との関連. 日本看護研究学会雑誌, 45(2), 261-269.
- Kurita H., Koyama T., & Osada H. (2005). Autism-Spectrum Quotient-Japanese Version and Its Short Forms for Screening Normally Intelligent Persons with Pervasive Developmental Disorders. *Psychiatry and Clinical Neurosciences*, 59(4), 490-96.
- Hull L., Manday W., & Petrides K. V. (2017). Behavioural and Cognitive Sex/Gender Differences in Autism Spectrum Condition and Typically Developing Males and Females. *Autism: The International Journal of Research and Practice*, 21(6), 706-27.
- Lai M-C, Lombardo M. V., Auyeung Bonnie, Chakrabarti Bhismadev, & Baron-Cohen S. (2015). Sex/Gender Differences and Autism: Setting the Scene for Future Research. *Journal of the American Academy of Child and Adolescent Psychiatry*, 54(1), 11-24.
- 前田由貴子・金山裕望・佐藤寛 (2017). 大学生における自閉スペクトラム症傾向の実態調査: AQ-J-10 を用いて. 関西大学心理学研究, 8, 23-29.
- 日本学生支援機構 (2024). 令和5年度(2023年度) 大学, 短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査結果報告書. <https://search.app/FyHmMWbh6RRRbadd7>. (2026年3月21日参照)
- Okada S., Chida W., English M. C. W., Shibata J., Onsen M., Tsutsui J., & Nakamura-taira N. (2024). Development and Validation of the Japanese Version of the Comprehensive Autism Trait Inventory in University Students. *Psychological Test Adaptation and Development*, 5, 337-50.
- Ruzich E., Allison C., Smith P., Watson P., Auyeung B., Ring H., & Baron-Cohen, S. (2015). Measuring autistic

- traits in the general population: a systematic review of the Autism-Spectrum Quotient (AQ) in a nonclinical population sample of 6,900 typical adult males and females. *Molecular Autism*, 6(1), 2.
- 酒井佐枝子・和田奈緒子・奥野裕子・辰巳愛香・山本知加・吉崎亜里香 (2014). Broad Autism Phenotype Questionnaire 日本語版 (BAPQ-J) の妥当性と信頼性の検討. 臨床精神医学 = *Japanese Journal of Clinical Psychiatry*, 43(8), 1181-90.
- Steyer R., Mayer A., Geiser C., & Cole D. A. (2015). A theory of states and traits--revised. *Annual Review of Clinical Psychology*, 11(1), 71-98.
- Summerill J., & Summers S. J. (2025). The consequences of social camouflaging in autistic adults: A systematic review. *Research in Autism*, 121-122, 202556.

資料 CATI-j

以下は、さまざまな性格や行動、特性に関する項目のリストです。「まったく当てはまらない」～「とても当てはまる」の5つの選択肢の中で、あなたに最もあてはまるものを選んでください。社会的・社交的なこと（“社交の場”“社会的な行事”“社会的な交流”）をたずねる質問に関しては、親しい友人や家族ではなく、それ以外の複数の人とかかわることを求められる場面を想定して回答してください。あまり考え込みすぎずに、回答を進めるようにしてください。

		まったく当てはまらない	あまり当てはまらない	どちらとも言えない	まあ当てはまる	とても当てはまる
1	気づくと、物を繰り返しいじったり遊んだりしていることがよくある（ペンをカチカチさせたり回したりするなど）	1	2	3	4	5
2	毎日行うことは、特定の決まったやり方でやりたいと思う	1	2	3	4	5
3	人に合わせようとする、かなりの精神的なエネルギーを使う	1	2	3	4	5
4	明るい光にとても敏感だ	1	2	3	4	5
5	いつも同じやり方をしている特定の活動や行動がある	1	2	3	4	5
6	社交的であることを求められると（人と積極的に関わるように言われるなど）、他の人のやり取りする様子を見て、それを真似しようとする 때가ときある	1	2	3	4	5
7	椅子に座っているときに、椅子をよく前後に揺らす	1	2	3	4	5
8	たいていの社会的な行事を楽しめる	1	2	3	4	5
9	自分が今より社交的に見える方略や方法を探している	1	2	3	4	5
10	社交の場で、他の人との交流を避けようとする	1	2	3	4	5
11	自分の感覚に過度に負荷がかかっていると感じることもある	1	2	3	4	5
12	気持ちを落ち着かせたり、考えをまとめたりするときに、特定のものをいじったり、遊んだりする	1	2	3	4	5
13	非言語的な手がかり（表情、しぐさや身振りなど）を読み取ることは難しい	1	2	3	4	5
14	自分の持ち物を特定のやり方で分類するのが好きで、その通りになっているかを確認することに時間をかける	1	2	3	4	5
15	社会的な交流は自分には簡単なことだ	1	2	3	4	5
16	人とやりとりするとき、自分がどのように振舞っているのかをチェックするのにかなりの労力を使う	1	2	3	4	5
17	社会的な交流は自分にはストレスになる	1	2	3	4	5
18	触覚の過敏さがある（触られることや肌触り、食感など）	1	2	3	4	5
19	表情からその人の気持ちがわかる	1	2	3	4	5
20	同じところを繰り返し歩き回ったり、ウロウロしたりする傾向がある	1	2	3	4	5
21	特定の決まりごとを最後までやれないと居心地が悪い	1	2	3	4	5

		まったく当てはまらない	あまり当てはまらない	どちらとも言えない	まあ当てはまる	とても当てはまる
22	人と話すときには、(振る舞いや会話の進め方についての) 筋書きをいくつか作っておき、それをたよりにしている	1	2	3	4	5
23	人がどう感じているかを汲み取ることは簡単だ	1	2	3	4	5
24	しょっぱい、すっぱい、辛い、甘いなどの特定の味覚に敏感だ	1	2	3	4	5
25	ストレスを感じると、特定の行動を繰り返してしまう	1	2	3	4	5
26	人とのやりとりで、非言語的な手がかり(表情、しぐさや身振りなど)をめったに使わない	1	2	3	4	5
27	特定のやり方でやりたい、もしくは「ちょうどよい感じ」になるまでやり直したいと、言い張ることがよくある	1	2	3	4	5
28	初対面の人に会うとき、上手に対応できる自信がある	1	2	3	4	5
29	社交の場に行くときには、うまく振る舞えるように事前に筋書きを作っておき、可能な限りその通りにする	1	2	3	4	5
30	社会的な行事はたいてい難しいものである	1	2	3	4	5
31	ある匂いに気を取られて、他のことに集中できなくなることがある	1	2	3	4	5
32	他の人から見ると特徴的でお決まりのくり返し行動がある(髪をなでるなど)	1	2	3	4	5
33	比喻や言葉のあやで、よく混乱する	1	2	3	4	5
34	一度決めた計画が変更されるとイライラする	1	2	3	4	5
35	新しい友人を作るのは難しい	1	2	3	4	5
36	予期せぬ大きな音にはうまく対応できない	1	2	3	4	5
37	他者の視点を理解するのは難しい	1	2	3	4	5
38	物を列やパターンで並べ替えるのが好きだ	1	2	3	4	5
39	決まったルールに従うことで、社交の場を切り抜けようとする	1	2	3	4	5
40	光がチカチカするのに敏感だ	1	2	3	4	5
41	やめるのが難しいと感じる決まった習慣がある(爪を噛んだりむしったり、髪の毛を引っ張るなど)	1	2	3	4	5
42	社会的な場面での暗黙のルールを理解するのが難しい	1	2	3	4	5

CATI-jについて

1. Comprehensive Autism Trait Inventory 日本語版 (CATI-j) について

CATI-j は、一般人口における成人の自閉症特性を測定する自己報告式の質問紙です。この CATI-j は研究のために作成されています。使用にあたっては、原著者 Michael English 氏のウェブサイト (<https://www.cati-autism.com/>) で、CATI の概要や使用についての注意事項などをよく読み、十分に理解してから、ご使用ください。

2. 使用許諾について

これらの尺度を研究、教育、臨床目的で使用する際に限り、原著者及び日本語版著者の事前の使用許可は必要としません。研究で使用する際には、論文には以下のように出典を明記していただければと思います。

CATI 原版の論文：

<https://doi.org/10.1186/s13229-021-00445-7>

English MCW, Gignac GE, Visser TAW, Whitehouse AJO, Enns JT, & Maybery MT (2021). The Comprehensive Autistic Trait Inventory (CATI): development and validation of a new measure of autistic traits in the general population. *Molecular Autism*, 12(37).

CATI 改定版の論文：

<https://doi.org/10.1177/13623613251347740>

English MCW, Poulsen RE, Maybery MT, McAlpine D, Sowman PF, & Pellicano E (2025). Psychometric evaluation of the Comprehensive Autistic Trait Inventory in autistic and non-autistic adults. *Autism*, 29(12), 2955-2974.

CATI 日本語版の論文：

<https://doi.org/10.1027/2698-1866/a000090>

Okada S, Chida W, English MCW, Shibata J, Onsen M, Tsutsui J, & Nakamura-taira N (2024). Development and validation of the Japanese version of the Comprehensive Autism Trait Inventory in university students. *Psychological Test Adaptation and Development*, 5(1), 337-350.

3. 臨床での使用につきまして

CATI は、自閉症スペクトラム障害（自閉スペクトラム症）の鑑別・診断のために開発された尺度ではありません。また、原版、日本語版ともに、信頼性・妥当性は検証されていますが、現時点では、この尺度で自閉症の判別が可能かどうか検証されてはいません。自閉症特性やそれに類似する症状や困難は、一般の人々にも多かれ少なかれみられるものですし、そのような症状の背景には単一ではない複雑な要因があるため、CATI の結果をもって、自閉症かどうか判断はできません。本尺度を実施したのち、ご自身の状態について心配になった方は、専門機関や専門の医師等に相談していただく必要があります。研究者が本尺度を使用する際にも、質問紙に回答した方に心配や懸念が生じた場合には、専門機関を紹介する、専門家によるアフターケアをおこなうなど対応していただくことが望まれます。

4. スコアリングについて

以下の項目の合計点を下位尺度得点とします。* は逆転項目です。

社会的交流 (SOC)：項目 8*, 10, 15*, 17, 28*, 30, 35

コミュニケーション (COM)：項目 13, 19*, 23*, 26, 33, 37, 42

社会的カモフラージュ (CAM)：項目 3, 6, 9, 16, 22, 29, 39

認知的柔軟性 (FLX)：項目 2, 5, 14, 21, 27, 34, 38

反復・自己調整行動 (REG)：項目 1, 7, 12, 20, 25, 32, 41

感覚過敏 (SEN)：項目 4, 11, 18, 24, 31, 36, 40

下位尺度名については、否定的な含意を避けることと、その特性をより正確に表現することを目的に、English et al. (2025) では FLX (旧 RIG) と REG (旧 REP) の名称が変更になりました。そのうち REG (Self-Regulatory Behaviours) については、自己調整行動の訳語のみでは自閉症特性を十分に反映しにくいいため、CATI-j では旧表記も併記した「反復・自己調整行動 (REG)」の尺度名を用いることとします。

開発者：千田若菜, 柴田珠里, 温泉美雪,
筒井順子, 中村菜々子, 岡田 智
問合せ先：s.okada@edu.hokudai.ac.jp (岡田)

Abstract

This study aimed to re-examine and validate the Comprehensive Autism Trait Inventory Japanese version (CATI-j) in a large sample of university students and to establish normative data. In addition, a scoring form (Fillable PDF) was developed to facilitate its clinical use. A total of 1,111 university students participated in the survey. The results demonstrated high internal consistency for both the total score and all subscales, and the score distributions were generally consistent with a normal distribution. Although some subscales showed significant gender differences, no difference was found in the total score, confirming the overall applicability of the CATI-j to Japanese university students. The CATI-j enables a comprehensive assessment of autistic traits, including not only social difficulties and restricted patterns of behavior and interests, but also sensory sensitivity and social camouflaging. It is expected to be a useful tool for academic support in higher education as well as for assessment in clinical settings.

Keywords : CATI-j, autistic traits, standardization, scoring form, university student

